

**令和 6 年度 第 1 回こまきこども未来館講座運営会議
会議要旨**

日 時	令和 6 年 7 月 1 日（月）午後 6 時～7 時 45 分
場 所	こまきこども未来館 クラブ室（ラピオ 3 階）
出 席 者	【委員】7 名（※敬称略） 玉置崇、長江美津子、植松浩二郎、伊藤尚子、渡邊紫麻、 采女隆一、宇野章子 【事務局】9 名 こども未来部長、こども未来部次長、多世代交流プラザ所長、事業推進係長、 係員、NPO 法人 10 人村（4 名） 【傍聴者】0 名
会議資料	次第 資料 1（こまきこども未来館体験ひろば 2023） 資料 2（こまきこども未来館講座運営評価シート） 資料 3（体験ひろば 2024 年度実施計画 概要） 資料 4（体験ひろば 2024 年度実施計画）
会議内容	1. こども未来部長あいさつ 2. 議題 (1) 令和 5 年度講座運営の評価について (2) 令和 6 年度こまきこども未来館講座等開催事業について
会議要旨	1. <u>こども未来部長あいさつ</u> ・アフターコロナのこども未来館は市内外から多くの来館があり、昨年度は年間目標の 30 万人を超える 31 万人が来館。今年中にオープン以来の来館者数 100 万人の達成を見込んでいる。 ・5 月には東海市長会が小牧市で開催され、東海 4 県約 90 の市長が視察にみえた。このこともあり、県内外を問わず連日視察の申込みが来ている。6 月の議会でも「体験ひろば」でこどもたちの成長につながる様々な活動をしていることに対し、評価をいただいた。 ・今後も、未来リテラシーを育む、様々な講座や体験活動を実施する「体験ひろば」として企業やサポーターの協力のもと、講座や体験活動の充実を図りたい。昨年度の実績報告と、それに対する評価を行うが、より充実した講座等の実施につなげていけるよう委員の皆様にはそれぞれの見地から忌憚のないご意見をいただきたい。 2. <u>議事</u> (1) <u>令和 5 年度講座運営の評価について</u> ※事務局から資料 1 により令和 5 年度講座運営の説明、資料 2 により評価シートの説明 玉置委員 活動報告だけでは、委員の方で一から評価するのは大変難しいため、評価シートには発注者である市としての講座運営についての評価を記載した。各

	評価項目について、評価理由を確認し、加筆・修正することで最終的に当会議の評価としたい。 ○利用対象児童が日常的に気軽に利用できる環境づくり 【受注者（10人村）】A 【発注者（市）】A
植松委員	「中高生のニーズに応じきれていない」とあるが、中高生のニーズはどのように把握しているのか。多様なニーズの多様とは具体的にどのようなものなのか。
事務局	中高生に対して年に一度利用者アンケートをとっている。開催する講座・企画に反映していくが、まだ多様なニーズに対して対応できていない部分もあると感じている。具体的にパソコンやiPadを用いた製作、あそびそのものなど。また、中高生には体を動かすことに一定のニーズがあることが分かっている。体を動かす講座に関してはまだ反映できていないように感じるが、身体表現のワークショップを行っている。そこに中高生が参加する中で体を使って自分を表現する部分の面白さの発見につながっていると感じている。
伊藤委員	18歳まで来れるということを知らなかった。中高生の中にもそもそも知らない子が多いのではないかと。告知などは行っているか。
事務局	昨年度から利用促進に向けて高校生にアンケートした結果、こまきこども未来館を高校生が使えるということを知らなかった、何ができるのかわからないという意見があった。そのため学校との協力関係を密にしながら、学校を通じてこまきこども未来館を知ってもらえるように取り組んでいるところ。実際、周知が足りていない部分もあるため、今年度になるが、小牧高校に協力を得て全校生徒へアンケートを行った。今後、企画や広報に反映していきたいと考えている。
	○活動を通じた発達の増進 【受注者（10人村）】A 【発注者（市）】A
植松委員	評価をするにあたって、それぞれに意図があれば良いが発達や発育など、言葉の使い方を合わせた方が良いのではないかと。
長江委員	未就学児と小学校高学年の子では発達段階が全く異なる。評価のポイントも年齢などによって整理するなどをしたら、わかりやすくなるのでは。
事務局	もともとは厚生労働省の児童館ガイドラインを基に作成したものではあるが、定義を整理して揃えたいと思う。評価ポイントの整理も参考にさせていただきたい。

宇野委員	○児童が主体的かつ創造的に活動できる環境づくり 【受注者（10 人村）】A 【発注者（市）】A 報告時にはじめは泣いていた小学 1 年生が泣かずに参加できるようになったという話があった。泣かずに参加できるようになったのがゴールではなく、その子なりに具体的にこういうことができたということがあれば知りたい。
事務局	夏のスライム村を開催した際、はじめは何をしていいかわからず涙を流していたが、実行委員として活動していくにつれて、高学年の子に「一緒にやろう」と声をかけてもらい一生懸命活動に参加するようになった。そういったことを繰り返す中で、自分が役にたっている、自分がやったことがだれかに感謝される、という経験が本人にあったのではと感じる。毎日泣いていたことを知っていた親は心配してたが、秋も自分から「参加したい」と言って挑戦してきた。
植松委員	○学びを振り返り成長を実感できる環境づくり 【受注者（10 人村）】B 【発注者（市）】A 1 年間連続した中で、それぞれの体験でアンケートをとる、振り返りをしている、という基準で受託者は自己評価をしているという認識であっているか。そのうえで、自己評価点 B に対して講座運営会議評価を A にする以上は、自己評価点を認めて、さらにここが良い、というものになるのではないか。
事務局 （受託者）	アンケートは専門講師のワークショップにてどんなことを発見、感じたか、次はどんなことがしたいのかといったものを聞いている。専門講師ワークショップに参加しているのは昨年度では年間 31 万人という来館者の中で 3,229 人のみ。振り返りや成長を実感できる環境づくりとしてはまだごくわずかなこどもに対してのみだと感じ、B としている。
玉置委員	運営会議評価としては A。一つの案として、文頭に『学びを振り返り自分を客観視して次の学びに繋げる連続性を大切にしていることは間違いなし。とりわけ』と加えるなど評価ポイントの文章を再検討する。 実際、現在、教育の現場でも「振り返り」が重要視されている。大人がその度その度指示をして行うのではなく、自分で自分をメタ認知しながらこうしていこうということを育てていくことが大切。自分自身で学び取るのが一番で、大人やコーディネーターが評価する必要はないという研究もでてきている。 ○障がいの有無や国籍の違いを越えて児童がお互いの理解を深める取り組み 【受注者（10 人村）】B 【発注者（市）】B

采女委員	評価と評定がずれている。何がマイナス面なのか、何を評価しているのか、評価のポイントに対してこう読み替えて評価をしたと、書きぶりを修正した方がわかりやすいのではないかな。
事務局	現状マイナス面は何だったのかがよく見えないままで B 評価になっている点がある。口頭で説明したマイナス面を追記する形で対応したい。
玉置委員	○保護者にとっても楽しく過ごしやすい環境づくり 【受注者（10 人村）】A 【発注者（市）】A エピソードには父親とそのこどもの一例があがっているが、実際、父親と比べると母親が連れてくる場合の方が多いのか。
事務局	数的には母親がまだまだ多い。ただ、最近は父親が連れてきている子も増えてきている。エピソードでは父親をとりあげたが、母親でもスマホばかり見ている方もいる。一人でさみしそうに来ていた子の親が姿を見せてくれたり、しっかりこどものことを考えてくれていることを感じたり、この施設や環境をきっかけに関わりが起きているという実感がある。 【議事（1）⇒事務局（市）案で承認】 <u>（2）令和 6 年度こまきこども未来館講座等開催事業について</u> ※事務局より資料 3・4 の説明 「こども大綱」や「児童館ガイドライン」にも安全に安心して意見を述べる場や機会を提供するとある。こどもにとっても、職員にとっても、自分の考えや気持ちを言って良い、安心が担保されている場でありたい。普段の遊びや学びの中に限らず、社会をつなぐような取り組みの中でも、その子にとっての挑戦の機会をつくっていききたいと考えている。 《質疑応答》
渡邊委員	もし自分のこどもたちが、実際に参加できたらすごく良い経験になると感じた。
植松委員	心理的安全性の 4 段階はステージ 3（貢献者の安全性）からステージ 4（挑戦者の安全性）へ乗り越えるのに大きな壁があるといわれている。具体的にどういった方法で乗り越えるかは考えているか。

事務局	こども、職員、ともにステージ 3 からステージ 4 へ向かっていけるようにしなければならないと考えている。具体的な方法論ではないが、職員も勉強をしながら、こどもも大人もこまきこども未来館での日々の活動にオーナーシップをもってもらい、貢献者としての安全性を担保しながら一人ひとりが挑戦者への安全性につなげていけるように環境を整えていきたい。
植松委員	これまでの施策や取り組みはこどもが「対象」だったが、今後はこどもを「主体」にするという時代になっている。そのなかでも意見を述べる場と、社会と繋げる場が大切とされていて、これが上手に取り入れられていると思うので、取り組みの中でどこかにその芽生えが感じられるよう期待している。 【議事（2）⇒事務局案で承認】